

定 期 作 況 報 告

平成26年9月
(9月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年よりやや低かった。降水量は平年より多かった（平年比164%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比123%）。

9月上旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年並で、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比71%）。日照時間は平年並であった（平年比107%）。

9月中旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年より極めて低かった。降水量は平年より少なかった（平年比10%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比69%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は平年と比較して、気温は低く、降水量および日照時間は平年並であった。

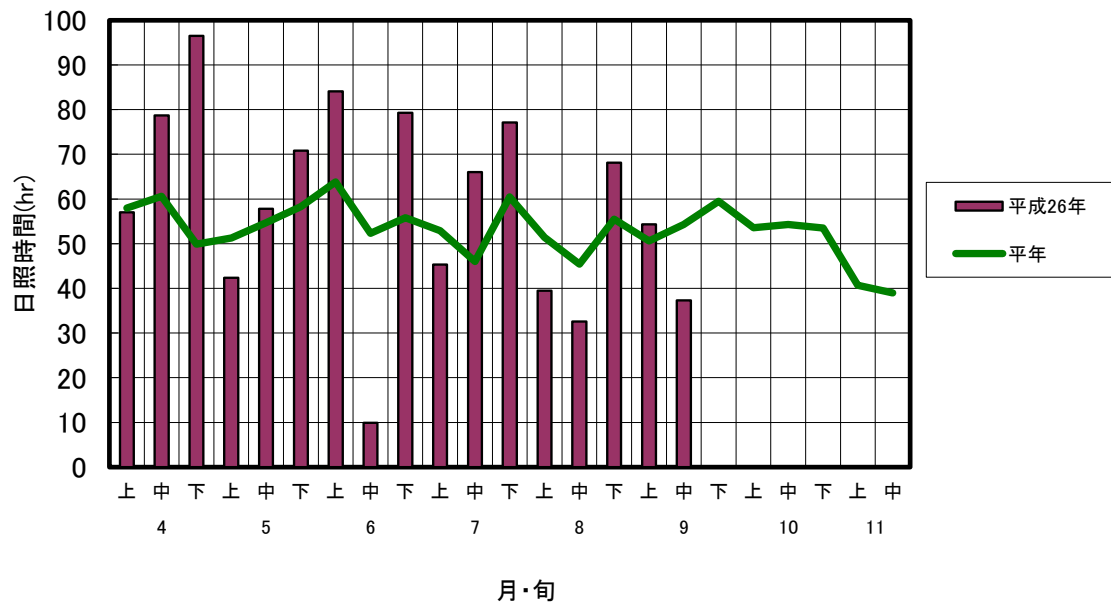
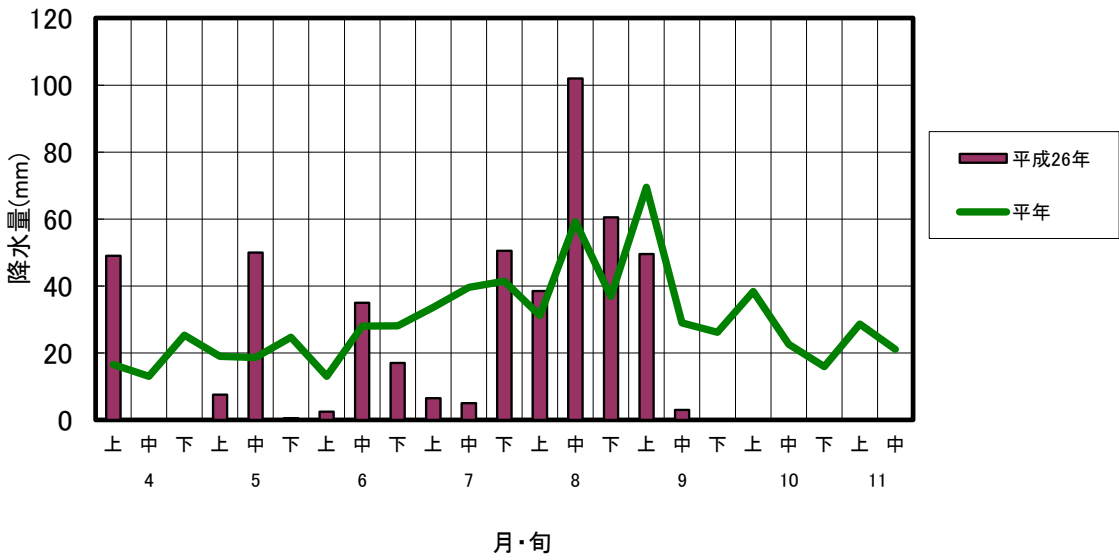
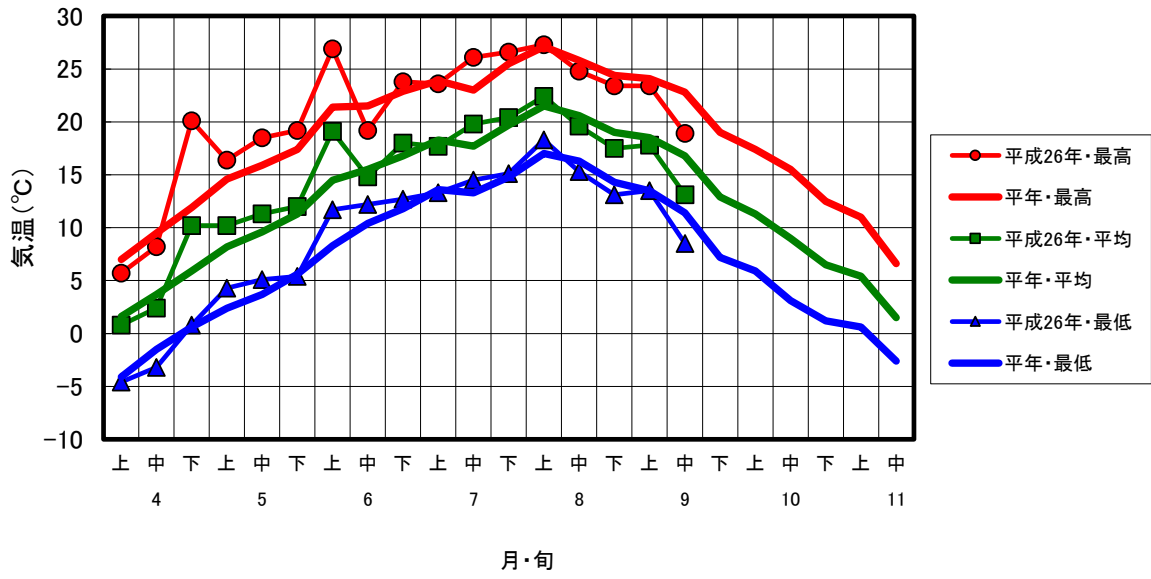
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	17.5	19.0	△ 1.5	23.4	24.4	△ 1.0	13.1	14.3	△ 1.2
9月上旬	17.8	18.5	△ 0.7	23.4	24.1	△ 0.7	13.5	13.5	0.0
9月中旬	13.1	16.8	△ 3.7	18.9	22.8	△ 3.9	8.5	11.4	△ 2.9

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	60.5	36.9	23.6	68.1	55.5	12.6
9月上旬	49.5	69.5	△ 20.0	54.3	50.6	3.7
9月中旬	3.0	29.0	△ 26.0	37.3	54.3	△ 17.0

注) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき小麦 作 況：良

事 由：出穂期は平年より9～10日早く、成熟期は平年より7～8日早かったため、登熟期間は平年より2日長かった。登熟期間中の日照時間が平年並から多かったことから、子実の充実は良好で、リットル重、千粒重とも平年を上回り、子実重は平年比119～120%と多収であった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重(kg/10a)	548	456	92	539	454	85
同上平年比(%)	120	100	20	119	100	19
リットル重(g)	834	796	38	832	803	29
千粒重(g)	40.5	39.4	1.1	44.5	41.9	2.6

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

2) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：平年並

事 由：9月20日の稈長は平年を10cm下回っている。本年の抽糸期は平年より8日早かった(前報)ものの、8月中旬以降の気温が全般に低い傾向で推移していることから、登熟は平年並に進んでいると推測される。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (9月20日)	272	282	△10

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

3) 大豆 作況：良

事由：主茎長は平年より長いが倒伏の発生はみられず、登熟は順調に進んでいる。主茎節数はほぼ平年並であったものの、分枝数および着莢数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.26	
主茎長 (cm) (9月20日)	83.7	67.2	16.5
主茎節数(節) (9月20日)	11.5	11.1	0.4
分枝数(本/株) (9月20日)	6.9	5.1	1.8
着莢数(莢/株) (9月20日)	78.5	66.9	11.6

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

4) 小豆 作況：やや不良

事由：成熟期は平年より「サホロショウズ」で7日早い9月8日、「エリモショウズ」で5日早い9月15日であった。成熟期における主茎長は平年を上回り、主茎節数および分枝数はほぼ平年並であったが、倒伏により着莢数は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.8	9.15	△7	9.15	9.20	△5
主茎長 (cm) (成熟期)	96.4	83.0	13.4	91.8	66.4	25.4
主茎節数(節) (成熟期)	14.3	13.9	0.4	14.6	14.2	0.4
分枝数(本/株) (成熟期)	4.1	4.4	△0.3	4.8	4.0	0.8
着莢数(莢/株) (成熟期)	56.1	63.4	△7.3	52.9	63.3	△10.4

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 菜豆

作況：平年並

事由：成熟期は平年より5日早い8月28日であった。成熟期における草丈、主茎節数および分枝数は平年を上回ったが、倒伏により着莢数はほぼ平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.28	9.2	△5
草丈(cm) (成熟期)	60.6	47.9	12.7
主茎節数(節) (成熟期)	5.7	5.1	0.6
分枝数(本/株) (成熟期)	6.3	4.2	2.1
着莢数(莢/株) (成熟期)	21.7	19.4	2.3

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作況：やや良

事由：「男爵薯」では、枯ちょう期は平年より1日早い9月1日であった。上いも重は平年をやや下回ったが、でん粉価は平年を上回った。「コナフブキ」では前期に引き続き、上いも重、でん粉価ともに平年を上回り、でん粉重は平年をかなり上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちょう期 (月.日)	9.1	9.2	△1		10.4	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	4370	4512	△142	5344	4704	640
でん粉価(%) (9月20日)	15.8	14.8	1.0	23.2	21.4	1.8
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	1187	959	228

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均

7) てんさい

作 況 : 良

事 由 : 前報に引き続き生育は順調で、いずれの項目とも平年並から平年を上回っている。特に根中糖分は、気温が平年より低かったため、平年よりかなり高い。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ (参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈 (cm) (9月20日)	64.1	64.5	△ 0.4	59.0	59.9	△ 0.9	61.9	61.6	0.3
生葉数 (枚) (9月20日)	33.2	30.3	2.9	30.7	29.9	0.8	22.8	21.4	1.4
茎葉重 (g/個体) (9月20日)	863	871	△ 8	877	932	△ 55	836	684	152
根重 (g/個体) (9月20日)	1108	1009	99	1134	1064	70	953	919	34
根周 (cm) (9月20日)	34.8	34.9	△ 0.1	37.8	37.2	0.6	34.1	34.1	0.0
根中糖分 (%) (9月20日)	15.62	13.88	1.74	16.51	14.19	2.32	16.12	13.83	2.29

注1) 注平年値は前7か年中、平成21年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前4か年の平均。

8) 牧草 (チモシー)

作 況 : 不良

事 由 : 3番草再生時(2番草刈取後25日目:9月2日)の草丈は平年よりやや高かったが、1、2番草の合計乾物収量は平年比89%と少なかった(前報)。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈 (cm)	3番草再生時	49	44	5

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

9) たまねぎ

作 況：やや不良

事 由：「改良オホーツク1号」では、枯葉期が平年より6日早かったが、平均一球重、総収量、規格内収量は概ね平年並である。一方、「スーパー北もみじ」では、倒伏期以降の枯葉が甚だしく、枯葉期が平年より11日早かったため球肥大がやや劣り、平均一球重、規格内収量は平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.16	8.22	△6	8.22	9.2	△11
収穫期 (月.日)	8.28	8.31	△3	9.2	9.11	△9
総収量 (kg/10a)	7039	7073	△34	6054	6402	△348
規格内収量 (kg/10a)	6006	6270	△264	5279	5802	△523
同上平年比 (%)	96	100	△4	91	100	△9
規格内率 (%)	85	89	△4	87	91	△4
平均一球重 (g)	230	243	△13	202	221	△19

注) 平年値は前8か年中、平成19年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、25年(最凶)を除く5か年の平均。